

浦	安	市	資料編
文	化	政	策
基	本	方	針

浦安市

目 次

1	方針策定の経過（全体）	1
2	検討経過	2
	（1）浦安市文化政策基本方針策定検討委員会	2
	（2）浦安市文化政策基本方針策定懇談会	3
	（3）浦安市総合教育会議	11
	（4）パブリックコメント	13
3	調査分析等	14
	（1）文化振興ビジョンに基づき行われてきた施策事業の評価.....	15
	（2）関係団体・機関のヒアリング.....	21
	（3）市民意識調査の把握.....	23
	（4）先進都市事例.....	27

1 方針策定の経過（全体）

期間	内容
平成 30 年（2018 年）7 月～8 月	文化政策に関連する意識調査、関係計画、先進事例の情報等整理
平成 30 年（2018 年）8 月～9 月	文化振興ビジョンに基づき行われてきた施策事業の評価
平成 30 年（2018 年）10 月	関係団体・機関へのヒアリング調査
平成 30 年（2018 年）10 月 17 日	第 1 回浦安市文化政策基本方針策定検討委員会
平成 30 年（2018 年）10 月 31 日	第 1 回浦安市文化政策基本方針策定懇談会
平成 30 年（2018 年）11 月 5 日	浦安市文化政策基本方針策定検討委員会作業部会（3 部会）
平成 30 年（2018 年）11 月 13 日	第 2 回浦安市文化政策基本方針策定検討委員会
平成 30 年（2018 年）11 月 21 日	第 2 回浦安市文化政策基本方針策定懇談会
平成 30 年（2018 年）12 月 26 日	第 3 回浦安市文化政策基本方針策定懇談会
平成 31 年（2019 年）1 月 10 日	第 1 回浦安市総合教育会議
平成 31 年（2019 年） 2 月 1 日～2 月 21 日	パブリックコメント
平成 31 年（2019 年）3 月 19 日	第 3 回浦安市文化政策基本方針策定検討委員会

2 検討経過

(1) 浦安市文化政策基本方針策定検討委員会

- ・委員長 : 市民経済部長
- ・副委員長 : 市民経済部次長
- ・委員 : 総務部次長 企画部次長 財務部次長
 福祉部次長 健康こども部次長 環境部次長
 都市整備部次長（2名） 教育総務部次長（2名） 生涯学習部次長

【浦安市文化政策基本方針策定検討委員会 開催経過】

日程	回数	内容
平成 30 年（2018 年）10 月 17 日	第 1 回	●基本方針策定の趣旨 ●基本方針策定スケジュール ●基本方針の方向性
平成 30 年（2018 年）11 月 13 日	第 2 回	●基本方針素案イメージ ●基本方針における文化の捉え方 ●基本方針における施策の方向
平成 31 年（2019 年）3 月 19 日	第 3 回	●基本方針（案）検討経過について ●基本方針の策定について ●基本方針に関連する施策事業について

【浦安市文化政策基本方針策定検討委員会作業部会 開催経過】

日程	回数	内容
平成 30 年（2018 年）11 月 5 日	第 1 回	テーマ「文化の振興」
平成 30 年（2018 年）11 月 5 日	第 2 回	テーマ「文化による地域活性化」
平成 30 年（2018 年）11 月 5 日	第 3 回	テーマ「文化に触れる機会の充実」

(2) 浦安市文化政策基本方針策定懇談会

・会長：

佐々木 雅幸 分野 文化を活用した都市創造
(文化庁地域文化創生本部主任研究官、同志社大学経済学部特別客員教授、大阪市立大学名誉教授)

・副会長：

吉本 光宏 分野 文化を活用した都市創造、オリンピックと文化
(ニッセイ基礎研究所社会研究部研究理事、オリパラ組織委員会文化教育委員会委員、文化庁文化審議会委員、文化政策部会委員)

・委員：

長澤 成次 分野 社会教育、市民活動・協働
(千葉大学名誉教授、うらやす市民大学校長)

野澤 和弘 分野 福祉
(毎日新聞論説員、社会保障審議会障害者部会委員、浦安市高齢者・障がい者権利擁護協議会委員)

中山 高樹 分野 都市計画(景観)
(一般社団法人日本メインストリートセンター、地域政策プランナー)

近藤 さなえ 分野 国際交流・多文化共生
(南アフリカ共和国大使館職員)

本庄 篤子 分野 芸術
(千葉交響楽団名誉コンサートマスター)

佐藤 忠信 分野 観光
(ちば国際コンベンションビューロー代表理事)

【浦安市文化政策基本方針策定懇談会 開催経過】

日程	回数	内容
平成 30 年 (2018 年) 10 月 31 日	第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ●基本方針策定の趣旨 ●浦安市の概要紹介 ●浦安市における文化の概念
平成 30 年 (2018 年) 11 月 21 日	第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ●基本方針策定検討に関わる基礎資料 ●基本方針における文化の捉え方 ●基本方針における施策の方向
平成 30 年 (2018 年) 12 月 26 日	第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ●基本方針における文化の捉え方と方針案 ●市に期待する文化施策・事業に関するアイデアや提案

【浦安市文化政策基本方針策定懇談会における主な意見】

主な内容

「方針1 歴史と伝統文化を保存・継承します」に関する主な意見

- 浦安市が取り組む文化は、市民がまちへの愛着や自分のまちという意識が持てるような、地域に根差したものが良い。
- 市立小学校3年生から副読本（『わたしたちの浦安』）で、浦安のことを勉強し、郷土愛が培われているように、子どもたちに浦安の歴史や文化を伝えていくことは重要である。
- 浦安市を紹介する冊子を転入者に渡してはどうか。大人にも浦安の歴史が分かって良いし、まちを歩きたくなると思う。
- 浦安市の生活の歴史を記録するとともに、多くの方に知っていただくため、人通りの多い場所に、記録したパネルなどを展示したらどうか。

「方針2 市民が文化芸術を鑑賞・体験・創造・発表する機会を拡充します」に関する主な意見

- 浦安市では、質の高い文化に触れられる環境があることから、一流の文化が生まれることも期待できる。
- 子どもたちが文化を体験できる機会の提供を通して、創造的な人を育てることは大事である。また、高齢者の健康づくりにもつながることから、高齢者が参加しやすい文化芸術活動を促進することも大切である。
- 市民の満足度が低いところをどう変えていくべきかという視点で考えると、さらに文化が充実していくのではないか。
- 東京湾に面した海辺の景観は、本当に素晴らしい。そこに美術館があれば多くの人が集まり、交流が生まれるのではないか。

「方針3 文化芸術を通じて誰もが共生できる環境を整えます」に関する主な意見

- 外国人が多く住んでいる自治体では、「言葉の壁」がない環境を整えることは大切である。また、このような取り組みを進めることで、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に増えるであろう外国人訪問者の受入環境整備にもなる。
- 障がい者の自己実現や社会参加促進に向けて、文化芸術活動の発表の場づくりを進めることは大切である。
- ソーシャル・サーカスの取り組みを支援してはどうか。サーカスアートに取り組むことで、様々な問題をかかえる青少年の育成に大きな効果を発揮する可能性がある。
- 高齢化社会の中で、健康寿命を延ばすためにも、高齢者が文化芸術活動に参加したり、触れたりすることは、より一層大切になると考える。

主な内容

「方針4 文化を観光、経済、福祉、地域振興など他分野に活かします」に関する主な意見

- 方針の基本的な方向性は、文化を活かしたまちづくりが良いのではないか。まとめ方としては、文化を活用し、他分野と協力することで、文化を活かした浦安らしいまちづくりを進めるとした方が分かりやすいと思う。
- 音楽や素晴らしい文化芸術に触れる機会を増やすことを通して、子育て環境が良くなり、また、住み続けたいまちになるのではないか。このように、文化活動を振興することによって、地域振興につながるのではないか。
- スポーツを通して、文化の交流が生まれることもあり、スポーツと文化は関連したものであると考える。

「方針5 多様な主体の連携により豊かな文化を育みます」に関する主な意見

- 文化の醸成により、浦安市が子どもから高齢者まで、誰にとっても住みよいまちになれば、長く住んでいたい魅力のあるまちになるのではないか。
- 公民館には様々なサークル活動があり、多様な活動が地域で展開されている。これが地域の文化を支えていると思う。
- 旧市街地にある文化財をはじめ、様々な文化に関する情報発信に力を入れた方が良い。
- 浦安市の中で盛り上がるのも良いが、日本や、アジアをはじめとした世界に向けて浦安の文化を発信することで、幅広い展開が期待できるのではないか。

「方針全体」に関する主な意見

- 文化は人がつくるものである。
- これから浦安のまちをつくる子どもたちに、自分たちの理想やイメージを語ってもらいと良いのではないか。
- 埋立後に転入してきた住民の定住が進んでおり、その人たちが新しい浦安市をつくる時代になっている。これまで培われてきた文化を、様々な分野でつなげ、そして、醸成、活用してはどうか。
- 浦安市は「移動人口」が大きいまちであることから、転出先で浦安市のことを話したくなるような魅力が増えれば、より情報発信が進むのではないか。
- 文化は市民のアイデンティティであり、それが醸成されて都市文化になるのではないか。

【浦安市文化政策基本方針策定懇談会委員からの市に期待する文化施策・事業に関するアイデアや提案】

主な内容
<p>●歴史文化の見直しと継承について</p> <p>埋立以降、浦安市が発展してきた経緯を含めた歴史について、組み込む方が良い。歴史を掘り起こし、そこから見えてくる新しい都市文化、生活文化をつくることが大切である。古い民家も含めて、歴史的なものも残っている。そうしたものを見直す時期でもある。東日本大震災も含めて、次の世代に継承していくことが大切である。</p> <p>●漁師まちの頃の文化の継承について</p> <p>「ふうかし」や「ぼったら」などの食文化は、頻繁に目にしたり、食したりする機会があると良い。市内の飲食店等に協力してもらい、メニューに加えてはどうか。</p> <p>また、浦安弁については、聞く機会が少なくなってきている。言葉は使わないとなくなっていく可能性がある。そこで地元のラジオ局などで5分、10分の浦安弁だけのコーナーを入れるなど、浦安弁が聞こえてくる環境づくりをしてはどうか。</p> <p>●国際音楽コンクールの開催について</p> <p>浦安市の素晴らしさをもっと世界に、また、他都道府県に広く発信してもいいのではないか。</p> <p>千葉県や浦安市には若い音楽家が多い。他の自治体で開催されている音楽コンクールでは、長く続けることで、歴史が生まれ、参加者のレベルも上がっている。</p> <p>浦安市でも、文化芸術を長い目で振興するとともに、市外に発信するためにも、海外からトップレベルの講師陣を招いたり、コンクールで様々な方を世界から呼んだりして、国際音楽コンクールを開催してはどうか。</p> <p>浦安市には、音楽ホールや文化会館などがあることから、色々な施設と連携した事業が考えられる。</p> <p>20年後、30年後を見据えて、浦安ならではの魅力に高めていけるとよい。</p> <p>●生活文化・地域文化の継承と創造を通したまちづくりについて</p> <p>これまで、社会教育の中でも、主に公民館活動に取り組んできた経験から、市民文化、生活文化を継承・創造するために、浦安市の公民館が取り組むとよい方向性について提案したい。</p> <p>一つ目に、浦安市の場合は「海」がキーワードだと思う。二つ目に、地域の文化を育む役割がある。地域の音楽文化や演劇文化を育むために、地域の中小文化ホールの役割は大きい。</p> <p>三つ目は多文化共生だ。成田市と浦安市は国際都市としての性格が共通している。成田市では日本語教室が始まって30年になるが、10人の外国人が教えている。浦安市でも、浦安在住外国人会があるなど、色々な国の人が交流し、「ともに生きる」ことに取り組んでいる。</p>

主な内容

四つ目は、ふるさと史づくりである。浦安に住む人たちがふるさとを作りながら、地域に生きるプライドというものを育てていく。

五つ目は演劇、六つ目は聞き書きだ。地域の人の歴史を一人ひとり聞き書きしていく。文化の担い手は一人ひとりの市民であり、一人ひとりが持っているものを継承していく。

学びは様々な効果を地域にもたらす。大人が学んだ成果が子どもの学びの教材になることがある。また、学びを通して、地域で活躍するボランティアが生まれることがある。船橋市では、音楽を中心としたフェスティバルのような地域交流イベントが行われたり、流山市では、地域資源や文化資源をビジネスに活かしたり、君津市では、認知症カフェのように高齢者への支援が行われたりしている。

金沢市では、小学校区ごとに公民館があり、この公民館を校下（こうか）公民館と呼んでいるが、金沢市では、市が主催の成人式ではなく、校下公民館が成人式を主催している。これも一つの文化と呼んでよいのではないか。

学びと文化との関係について、2006年の教育基本法では、「新しい文化の創造を目指す」とある。一方、社会教育法では、暮らしと結びついた、文化的教養を高めることが社会教育の本質であるとし、また、暮らしと結びついた文化、生活文化の振興が公民館の目的となっている。NPO法では、ボランティア活動に係る自由な社会貢献活動とある。

今回の基本方針は、浦安市の文化を励ますような内容となってほしい。そのことにより、市民の浦安への愛着や魅力の向上にもつながるのではないか。

●障がい者アートの実施について

知的障がいや精神障がいのある方が、日本では絵画や陶芸、舞台芸術をやっており、色々なところで評価されている。また、色々なところでこうした活動が活発になっている。障がい者のアートは徐々にセラピーとなり、最近は芸術として見られている。

フランスのナント市で、日本の障がい者アート展を開催したが、記録的な集客となった。日本では障がい者による舞台芸術も人気であり、島根県では障がい者施設が神楽をやっており、人気がある。長崎では、和太鼓をやっている。

私は、障がい者の人権問題を扱ってきた。この10年間で障がい者支援事業者は3倍になっている。これまでは安心・安全であったり、本人の生活を良くしようというところが支援・サービスの中心だったが、近年は生きがいや自尊心を満たすことなどを目指すようになってきている。

ケアされる人、福祉サービスを受ける人だけでなく、社会に能動的に関わる人、支援する職員の意識も変える必要がある。できない人を支援するという意識ではなく、もっとクリエイティブなところに職員のアイデンティティを持っていく必要がある。

これまでの政策は支援が中心だった。しかし成熟社会、豊かになった社会では、社会に能動的に関わらないと、健康で文化的な最低限度の生活にならないのではないかという話がある。

主な内容

フランスのナント市はかつて造船業で栄えたが、その後衰退し、文化芸術を中心としたまちづくりで成功した。今はフランスで住みたいまちの上位に位置づけられている。造船をモチーフとしたオブジェを作ったり、まちへの愛着や誇りを失わないために工場の面影を残すなど、歴史と文化を活かし、産業の衰退と人口減少で自信を失った市民に希望を与えることができている。

日本は素晴らしいものが全国各地に残っているし、特産品や伝統工芸もある。人口が東京に集中したのはここ数十年の話である。職人だけでなく、職人を使う側の目利きも大事だ。日本では貴族ではなく、庶民が歌舞伎を見てきた。これからはAIが色々と変えていく。人間とは何か、人間にしかできないことは何かと考えるとき、文化芸術や障がい者が持つ固有の価値観が貢献できるのではないか。

障害者文化芸術推進法もできたが、取り組みが進んでいる自治体がある一方、進んでいない自治体も多い。そうした中、浦安市でも人材育成や人材発掘、ネットワークの拠点づくりに取り組むと良い。日本のアール・ブリュットのネットワークについて、日本をハブにして、来年はタイ・バンコクで最大のイベントをやることになっている。浦安市は羽田空港や成田空港にも近く、ポテンシャルがある。

秋田に国際教養大学があるが、秋田杉を使った図書館は市民にも公開され、24時間利用可能だ。留学生が1/4を占めるが、キャンパスに入るとヨーロッパの大学に入ったかのようだ。図書館で生活する学生も多い。浦安市の図書館は中央図書館の蔵書数はすごいが、そこを活用してできることも多いのではないか。

知的障がいのある人が働くようになり、障がい者であり労働者にもなったので、世の中のことが分かるようになると良い。そうした中で、「スローコミュニケーション」という一般社団法人がある。新聞などの身の回りの情報は難しいため、それを分かりやすくして、情報を届けることをサポートする団体であり、これから増える外国人などにも通じるものがある。知的障がい者向けでやっているのは当団体と大阪の団体くらいだが、浦安市でもやってはどうか。

●障がい者や子どもと取り組む「サーカスアート」の展開について

オリパラの文化プログラムにも関連するアイデアを提案したい。浦安市には舞浜アンフィシアターがあるため、第1回懇談会でもサーカスアートの提案をしたが、今回のプレゼンテーションはそれをもう少し具体的に考えてみた。

オリンピックが文化の祭典でもあることは、オリンピック憲章の根本原則第一に書かれている。1964年東京五輪でも文化プログラムは行われた。1992年バルセロナ五輪以降、4年間文化プログラムを行う「カルチュラル・オリンピック」が始まった。2012年ロンドン五輪では最も充実し、2016年リオ大会では低調に終わったため、次の2020年東京大会では「一体どんな文化プログラムが行われるのか」と期待されている状態だ。

主な内容

2012年ロンドン五輪ではアスリートと同様の204の国や地域すべてからアーティストが参加したが、2020年東京大会では「日本文化の発信」が中心となりそうである。

2020年東京大会に向けて、障がい者アートへの関心が急速に高まっている現状がある。「アンリミテッド」というロンドン大会の障がい者アートのフィスティバルの成功を受けて、東京への招致の際の立候補ファイルには、既に「アンリミテッドの成功を承継する」と書かれている。また、鳥取県平井知事の声掛けで「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者の芸術文化活動推進知事連盟」が組織された。さらに、文化芸術基本法では、障がいの有無に関係なく、文化芸術を鑑賞、参加、創造できることが記載されている。また2018年6月には「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、現在、国は基本計画を策定中であり、障がい者の芸術活動に注目が高まっている。

日本では、美術系の障がい者アートは長い歴史がある。一方で舞台芸術系はそれほど盛んではない。舞台芸術系の障がい者アートを振興するためには、本人、例えば足に障がいのあるアーティストだけではなく、アカンパニストと呼ばれる伴走者が必要だ。また、活動拠点も必要である。2020年まではこうした活動が推進されるだろうが、その後、どのように継承、発展するか見通せない状況にある。

地方自治体でサーカスアートを支援しているところは、私の知る限り皆無である。日本では、サーカスは見世物やエンタテインメントという印象があるが、サーカスアートは本来芸術性が高く、同時に社会包摂など社会性が強い。

シルク・ドゥ・ソレイユも「シルク・ドゥ・モンド」と称して、青少年等の自尊心を高める活動などに取り組んでいる。サーカスアートの特性として、高所でパフォーマンスを行うため、リスクがあり、また恐怖を伴うが、それらを克服する必要がある。また、ジャグリングなどでは、失敗を通じて成功するを経験する。さらに、空中ブランコなどは制約がある中で、表現を追い求めることが大切だ。グループで取り組むことで相互信頼にもつながる。これらの特性は、社会の中で生きていくために必要な要素につながるものだ。シルク・ドゥ・ソレイユはこうした活動を、10万人の若い青少年に対して実施している。最近「ソーシャル・サーカス」と呼ばれて、日本でも注目されつつある。ヨーロッパやカナダで多く実施されているが、これを浦安でやってはどうかというのが私の提案だ。

シルク・ドゥ・ソレイユのリサーチによれば、世界70カ国で500団体がソーシャル・サーカスをやっており、20万人の子どもにプログラム提供をしているとも言われている。その結果、5,000以上の雇用が生まれたそうだ。

オリンピックの文化プログラムでは、障がい者に注目が集まっており、これを機会にソーシャル・サーカスを浦安市で取り組むことができれば、話題性も高いし、今回の基本方針にも沿ったものになるのではないか。

主な内容

●国際交流について

浦安市に住む外国人の国籍・地域が80であることは、あまり知られていない。そこで、ウラヤスフェスティバルのパレードで、オリンピックの最後の行進と同様（開会式では整列して入場するが、閉会式では整列しないで歩いて、混じり合っただい感じになる）、浦安在住外国人の国旗を持ってもらい、歩いてもらえると、浦安にはこういう国籍・地域の人がいいて、外国人にとっても浦安はふるさとだという一体感も生まれるのではないか。

●子どもや高齢者の創造性の向上について

10年後、20年後にAIが台頭すると、仕事のあり方が変わると考えられることから、これからの子どもたち、次世代の青年たちには、AIを超える創造性が求められる。創造性を育むためには、色々なものに触れることができる環境づくりが大切であると思う。

また、団塊の世代については、社会活動寿命を伸ばすことが大切であり、そのためには、創造性を高めながら社会の活力を上げていくことが大事であると思う。

●マンション共用部分や道路、公園などの空地（オープンスペース）の活用について

浦安市はこれから成熟都市となり、既存施設を有効活用していく視点が大切になると思う。浦安市のまちづくりの特徴として、マンションの共用部分や道路、公園などに広い空地が確保されていることから、その空間で芸術活動ができると良い。

●文化施策の安定的な財源確保について

文化施策が安定・継続的に推進できるよう、市の歳入において、文化施策に充てられる財源を確保するという視点も必要ではないか。

(3) 浦安市総合教育会議

出席者

- ・内田 悦嗣 (市長)
- ・鈴木 忠吉 (教育委員会 教育長)
- ・川端 秀仁 (教育委員会 教育委員)
- ・舘 里枝 (教育委員会 教育委員)
- ・宮道 力 (教育委員会 教育委員)

日程	内容
平成31年(2019年)1月10日	●浦安市文化政策基本方針骨子案

【浦安市総合教育会議における主な意見】

主な内容
<p>「浦安市が目指す将来像など」に関する主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「浦安市が目指す将来像」の「文化×(創造+交流) = まち×(愛着+魅力)」という数式は、「文化掛ける創造」と「文化掛ける交流」を足し合わせると捉えることができる。また、「創造と交流を足して文化を掛ける」という捉え方もでき、人によって異なる受け取り方をすることができる。 ●「文化」、「創造」、「交流」、「まち」、「愛着」、「魅力」という言葉についても、「将来像の実現に向けた方針」の中で多く使われているため、わかりやすい。 ●浦安市のイメージについては、まちの歴史などを振り返ると、漁師まちから、ディズニーランドがあるまちへと変化してきたと思う。現在は、浦安の特徴を明らかにする時期にあると思う。そうした中、この「浦安市が目指す将来像」は非常にコンパクトでわかりやすいと思う。また、浦安市は国際的なイメージを持っていることから、日本語だけでなく、英語での表記もあってよいと思う。 ●「多様な主体の連携により豊かな文化を育みます」という方針については、文化を育む上で情報を発信していくことも重要であることから、「まちの魅力を発信します」という内容を加えるとよいと考える。 <p>「文化の範囲」に関する主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昔の浦安は漁師まちで、海を生活基盤としていたことから、海に関する文化を対象とすることが考えられる。

主な内容

「文化の継承」に関する主な意見

- 小学生や中学生が芸術文化に触れ合う機会は少ないので、浦安市で芸術文化に取り組んでいる人たちが学校を通じて、子どもたちと交流できる機会ができるとよい。
- 地域において教育活動を行う中で、ご年配の方々、たとえばお茶やお花、書道の先生などが持っている文化を学校の授業とは別の形で伝えていきたい。さらに、定年を迎えられた方や保護者の方が地域のボランティアとつながりを持ち、地域の子どもたちに対して、自分たちが持っている文化につながるような知識を伝えることができればよい。
- 歴史や伝統文化を、記録や映像としても残していくことは非常に重要なことであり、実際に学校現場でも紹介できればよい。
- 市民文化については、市民が自ら参画していける機会があるので、どのように醸成して、具体的にどう実現していくかが重要になる。市民大学校を活用してネットワークを作り、まちづくりに関する情報なども共有しながら交流できればよい。
- 次世代との交流が、教育の中でできると、まちの文化が継承されていくと思う。
- 教わるのではなく、見よう見まねで学んでいくことが自然だと思う。
- 子どもを受け入れるオープンな環境づくりをすることが大切である。
- 浦安の伝統芸能の活動を知らない市民もいると思う。元町地域の人たちにとっては、古くからやっていることであるが、転入してきた人たちは、市の歴史についての知識が少ないと感じている。本市の文化を継承する人を増やすために、文化を知る機会を拡充することが重要である。
- 市内に住む浦安のことをよく知っている人たちがまちづくりに意識を向けることが増えるとうい。また、浦安の特徴を踏まえて、核となるものを活かしながら次世代へ継承していくことが必要だと思う。

(4) パブリックコメント

① 実施期間

平成 31 年（2019 年）2 月 1 日～平成 31 年（2019 年）2 月 21 日

② 実施方法

- ・市ホームページで浦安市文化政策基本方針（案）公表
- ・市役所、情報公開室、各駅前行政サービスセンター、図書館各分館に浦安市文化政策基本方針案を設置

③ 提出された意見数

- ・ 0 件

3 調査分析等

期間	内容
平成 30 年（2018 年）7 月～8 月	●文化政策に関連する意識調査、関係計画、先進事例の情報等の整理
平成 30 年（2018 年）8 月～9 月	●文化振興ビジョンに基づき行われてきた施策事業の評価
平成 30 年（2018 年）10 月	●関係団体・機関へのヒアリング調査

(1) 文化振興ビジョンに基づき行われてきた施策事業の評価

「浦安市文化振興ビジョン」（平成17年度（2005年度）策定）では、以下の5つを文化振興の目標として位置付け、取り組んできました。本市におけるこれまでの取り組み状況について、関係部署に対して調査し、成果や課題等について評価しました。

日常の文化	多様な文化を活かし、創造的なコミュニティの輪を広げます
地域の文化	生活の中で「地域の文化」を育みます
歴史文化	文化の整備・保存・継承を図ります
これからの文化	「浦安らしさ」をつくり出します
芸術文化	芸術文化に触れる機会や、市民の芸術文化活動の場を充実します

(目標1) 日常の文化

多様な文化を活かし、創造的なコミュニティの輪を広げます

施策の方向	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化を育てる環境づくりの推進 ●文化活動を通じた地域住民の交流の促進 ●多様な交流による地域文化の創造
成果	<ul style="list-style-type: none"> ●文化施設の他、公民館・老人クラブ会館・自治会集会所や、市民活動センター・まちづくり活動プラザ・うらやす市民大学校などの整備が進み、市民の文化の鑑賞や体験・創造をはじめ、まちづくり活動を促進した。 ●公民館を中心に、サークルと連携した各種事業や公民館文化祭を開催し、利用者の交流を促進した。また、公民館と郷土博物館が連携し、伝統文化を学ぶ機会を提供した。 ●ウラヤスフェスティバル、市民活動フェスティバル、花火大会などにおいて、市民の参加と交流が促進され、地域に根差した活動が展開された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が文化を学んだり体験したりして得た成果を、まちづくり活動など、地域貢献や地域における交流により一層つなげられるようにすること。 ●団体の会員減少や解散の動きもある中、活動への参加が増えるようにするなど、団体の基盤強化や活性化をより一層促進すること。 ●市民の活動促進と施設の一層の有効利用を図るため、文化施設等の利用促進を進めること。 ●行事・イベント等へのより一層の参加促進や事業の効果向上に向けて、事業のあり方の検討や広報の方法などについて工夫をしていくこと。

(目標2) 地域の文化

生活の中で「地域の文化」を育みます

施策の方向	<ul style="list-style-type: none">●浦安の生活文化を理解する場の充実●地域の特性を活かした地域文化の振興●魅力的な景観づくり・地域の文化を育てる環境づくりの推進
成 果	<ul style="list-style-type: none">●郷土博物館、公民館、うらやす市民大学校などにおいて、歴史伝統文化を伝え、体験できる事業を実施している。●公民館で行われる文化活動や、自治会が地域特性に根差して行うコミュニティ活動への支援を通して、地域の特性を活かした文化の振興を図っている。●景観計画・景観条例に基づき、良好な住宅街を守る景観形成を図ってきた。また、河川の修景や公園整備・改修にも取り組むなど、魅力的な景観づくりを進めている。●市民参加による景観形成を促進している。
課 題	<ul style="list-style-type: none">●歴史伝統文化の保存・継承に向けて、昔からの文化を伝える市民ボランティアを育成する事業を充実させること。●自治会等がより一層、地域課題の解決を含めた地域に根差した活動を展開できるよう、基盤強化や市民活動団体との連携促進などを図ること。●良好な景観形成に向けて、市、市民、事業者で良好な景観のイメージを共有し、各主体の率先した、また連携による取り組みを促進すること。

(目標3) 歴史文化

文化の整備・保存・継承を図ります

施策の方向	<ul style="list-style-type: none">●有形文化資源の保存、継承、活用●無形文化資源の保存、継承、活用●歴史伝統文化を大切にす意識の向上●歴史伝統文化の継承のための人材育成
成 果	<ul style="list-style-type: none">●郷土博物館を中心に、市民との協働を進め、歴史伝統文化に関連する有形・無形の文化資源の保存・継承・活用に努めている。●多言語の観光ガイドブックの作成や観光ボランティアの育成・活用を行うことなどを通して、文化資源の観光面での活用を推進している。●郷土博物館における学校との連携、調査研究成果の公開や、文化財保持団体の育成（活動場所の提供や補助）、郷土学習コンテンツの公開など、情報の発信を進めている。●文化財保持団体への支援（活動場所の提供や補助）などを通して、文化財保持団体の基盤強化や活動の活性化を図っている。
課 題	<ul style="list-style-type: none">●歴史伝統文化を保存・継承するボランティアの育成を図ること。●後継者育成に困難を抱えている歴史伝統文化を保全・継承する団体への支援策や方針を検討すること。●本市の歴史文化に係る多様な資源を観光などに活用すること。●郷土博物館の展示物等の見直し及び情報の多言語化。

(目標4) これからの文化

「浦安らしさ」をつくり出します

施策の方向	<ul style="list-style-type: none">●特色を活かした国際交流の推進●市内における異文化交流の推進と異文化理解の促進●浦安の魅力の発信
成 果	<ul style="list-style-type: none">●姉妹都市オランダ市との交流を含め、市民主体の国際交流が活発に行われ、「多様な文化が共生するまち」づくりを進めている。●在住外国人に向けた日本語講座や、日本人市民と在住外国人との文化交流を市民主体で取り組んでいる。●文化を活かした観光ガイドブックの発行などを行っている。●郷土博物館等の本市文化資源を活用したアフターコンベンションの取り組みを進めている。●市内企業等と連携して浦安において様々な体験を行えるプログラムを作成し、教育旅行の誘致を進めている。●図書館では、レファレンス対応の充実、多様な蔵書の蓄積を行っている。
課 題	<ul style="list-style-type: none">●在住外国人が生活で必要としていることの把握に努め、ニーズに合った事業を行うなど、多文化共生のまちづくりに向けて事業の効果を高めること。●ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックを契機として、インバウンド客や MICE に対する体験コンテンツの拡充や情報発信、受入環境の整備に取り組むこと（郷土博物館のユニークベニュー利用など）。●市民力を通訳ボランティアなどへ活用していくこと。

(目標5) 芸術文化

芸術文化に触れる機会や、市民の芸術文化活動の場を充実します

<p>施策の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な文化芸術鑑賞機会の充実 ●新しい文化を生み出す人材の発掘と育成 ●次世代への文化活動の支援 ●自ら表現する活動の場の提供
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●文化会館、市民プラザ、音楽ホールを中心に、市民参加型事業を開催している。 ●平成22年度(2010年度)から24年度(2012年度)まで、市内公共施設にある作品をインターネット上で紹介する事業を行い、身近な作品への市民の関心向上に寄与した。 ●生涯学習情報システムに文化団体やその指導者が登録。Uスタイルや音楽村、イルカ合唱団等、市内音楽家等の人材発掘と活動機会を提供している。 ●浦安ユースオーケストラの活動支援等を通して、若い世代の育成を図っている。 ●市内全ての幼稚園・こども園・保育園や小・中学校を対象とした鑑賞教室等を開催している。 ●各学校の自主性を尊重し、各学校で文化に取り組んでいる。 ●公民館や青少年交流施設でも、子どもや青少年を対象とした事業を実施している。 ●公民館や青少年交流施設で成果発表や展示の機会を創出するとともに、子ども作品展や子どもアートギャラリーを通じて展示の場を創出している。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●鑑賞をきっかけとして、体験・創造などの活動、さらには地域活動や市民活動へつなげること。 ●年齢、障がい、国籍等に関わらず、誰もが文化を鑑賞、体験・創造できる環境整備に引き続き取り組むこと。 ●幼児・子どもや青少年が、文化を鑑賞・体験するだけでなく、自ら表現する活動につなげていくため、切れ目ない支援に取り組むこと。 ●身近な場所で文化に触れる機会を増やすこと。

- 「浦安市文化振興ビジョン」の推進については、以下の点を踏まえて取り組んできました。

<p>施策の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各種計画との連携 ●市民に対する多様な方法での情報提供 ●市民が主体の文化振興 ●職員の文化意識の向上 ●文化推進のアドバイザーとなる人の育成
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各種計画や施策において文化的な視点を持つよう努めている。 ●生涯学習情報提供システム、郷土博物館収蔵品データベースなどにより、多様な施設における文化に関する事業等の情報提供を進めている。 ●レファレンス対応などの図書館サービスを充実させるとともに、各種事業と連動した図書の紹介も実施している。 ●市民の主体的な文化への参加や、市民ボランティアの育成を行う各種講座等を各課が実施している。(郷土博物館・図書館・公民館・協働推進課等) ●指定管理を行う施設では、市職員と指定管理者等の間で協議を行いながら、市民ニーズに応じた文化事業に取り組んでいる。 ●観光、郷土博物館展示物の翻訳等への市民ボランティアの育成・活用などを推進している。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットなどをより活用した情報提供や、文化とまちづくりなど他分野との関連を強化した情報提供を検討すること。 ●庁内における文化振興ビジョンの認知度が低いことから、庁内が一体となった文化事業の推進体制を整備すること。

(2) 関係団体・機関のヒアリング

本市における文化活動の実態や課題を把握するため、地域で活動している団体・機関にヒアリングを実施しました。

主な内容
<p>「自治会活動」について</p> <ul style="list-style-type: none">●浦安市全体の自治会加入率は約45%である。●お祭りなど自治会のイベントには、自治会加入者以外にもご参加いただいている。●自治会まつりや夏祭り、餅つきなど、自治会のイベントによく参加する若い人がいるので、役員をお願いするため、少しずつ声を掛けている。●自治会では、仲間づくりを目的として、例えば、盆踊りの練習や空手の練習、高齢者を中心とした「健康体操」などの活動をしている。このため、自治集会所の利用率は高い。また、そのような活動は、会員の情報交換の場ともなっている。●4年に1回、まち全体が盛り上がるお祭りは、浦安三社祭以外は、この辺りにはない。浦安三社祭は、これまで参加していなかった人でも参加できる。5月になると神酒所に小屋ができ、そこで作業をする。また、浦安三社祭が終わった月曜日には、きれいになっている。そのような団結力がある。●浦安は三社祭がメインであり、立派なお祭りなので、もっとPRしてほしい。 <p>「老人クラブ活動」について</p> <ul style="list-style-type: none">●老人クラブの加入率は約9%である。より多くの方が加入する老人クラブになるように、魅力ある活動に取り組んでいきたい。そのためには、老人クラブの施策を変えていく必要があると感じている。●老人クラブでは、囲碁や将棋、カラオケ、ダーツ、日本舞踊などの活動をしているため、老人クラブ会館の稼働率が高いが、午後6時以降の活動や土曜日、日曜日をフルに活用して、より一層、稼働率を高めていきたい。●老人クラブの取り組みの一つに、伝統文化の継承がある。幼稚園や小学校を訪問して、昔あそび（紙相撲や紙飛行機、ベーゴマ、けん玉など）を教えている。●地域支援活動により一層取り組む方向で、具体的な取り組みを今後検討していく。 <p>「市民活動」について</p> <ul style="list-style-type: none">●市民活動の状況としては、健康に関する団体や、芸術やスポーツを楽しんでいる団体が多い。●市民活動センターでは、市民活動団体と地域活動団体、そして公民館、児童育成クラブなどの関係機関との連携を促進する取り組みを行っている。 <p>「伝統芸能（お囃子）」について</p> <ul style="list-style-type: none">●小学校の中には、伝統芸能に関する活動を行う部活動があり、指導に行っている。また、中町や新町の小学校から伝統芸能を体験したいという依頼があり、体験会を開催することがある。●人の前で演技をするので、一生懸命練習をしている。●外国の企業の社員に対して、伝統芸能を披露する機会もある。

主な内容

「伝統技術（べか舟操船）」について

- べか舟を漕ぐ技術を後世に残したいとの思いから活動している。
- 月1回、定例的に練習している。学校からの依頼を受けて取り組むことや、博物館などのイベントで操船することがある。
- 乗船体験として、中学校からの依頼を受けて取り組んでいる。また、郷土博物館のイベントでも取り組んでいる。
- べか舟の乗船体験を、まち歩きのようなイベントに組み入れてもよい。

「芸術活動（音楽）」について

- オーケストラの演奏会を市内の若手音楽家と共催で開催することがある。若手の演奏家はフルオーケストラと演奏する機会が少ないため、一緒に演奏会を開催するようになったが、これは珍しい取り組みだと思っている。
- 団体の活動運営は、団員が意見を出し合い、納得して行っている。
- 地域でも他の団体と連携ができています。今の感じで地元の音楽家や、地元の団体と一緒に活動ができるとよい。
- 青少年が参加できる枠組みも作ったが、青少年がオーケストラの活動が継続できるかは、これからも様子を見ていく必要がある。

「芸術活動（ダンス）」について

- 中学校学習指導要領でダンスが必須となっている。これは、感じを込めて踊ったり、みんなですべて自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流などができるようにすることが目的の一つだと聞いている。
- 子どもたちにダンスの発表の場をつくること、また、素晴らしいダンスを見ることは大切であるとの思いから、学校から依頼があるときは、中学校体育館で子どもたちにダンスを教えている。

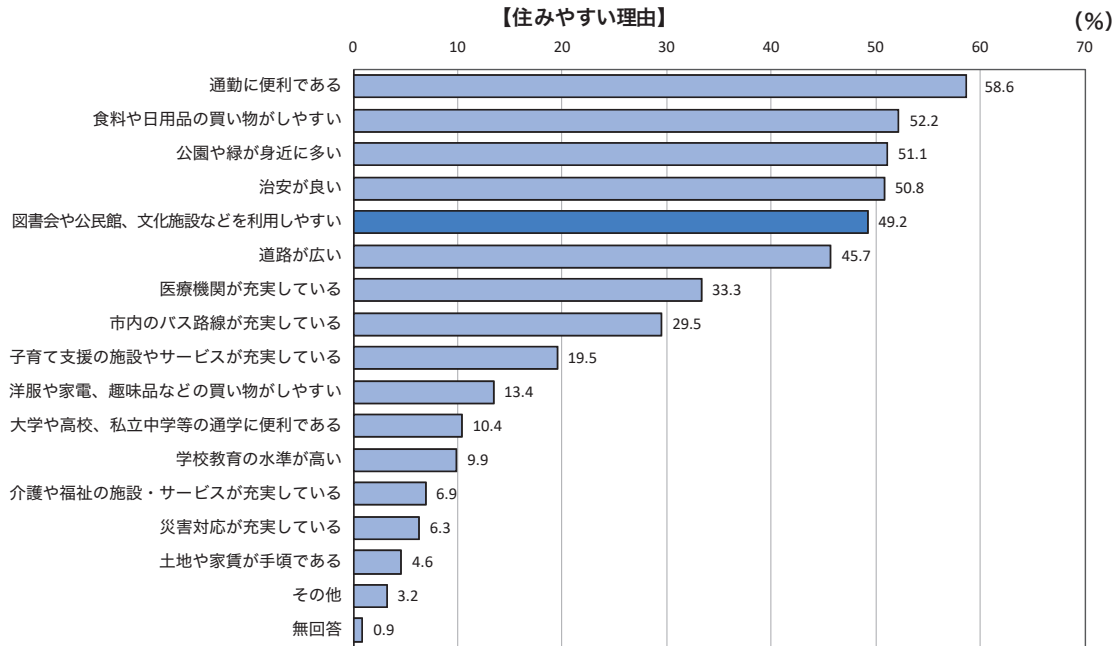
「文化と観光との連携」について

- 平成30年（2018年）7月に運行を開始した「乗り合い屋形船」は、2人から乗れるという気軽さから需要がある。浦安の資源である屋形船を発掘することができた。参加者は3分の2が市外からであり、よい滑り出しとなっている。
- アーバンリゾートを訪れた観光客などが、どの様にしたら元町などの市内も観光してもらえるのかについては、浦安市の長年の課題であるが、市内の観光をしていただくために、屋形船は有効な資源であると思う。
- インバウンド向けの観光コンテンツとして、資源の組合せを考えている。ニーズとコンテンツを上手くマッチングさせることが必要である。
- 千葉県では主にMICEとして、国際会議や展示会などを主催者に対してPRしている。

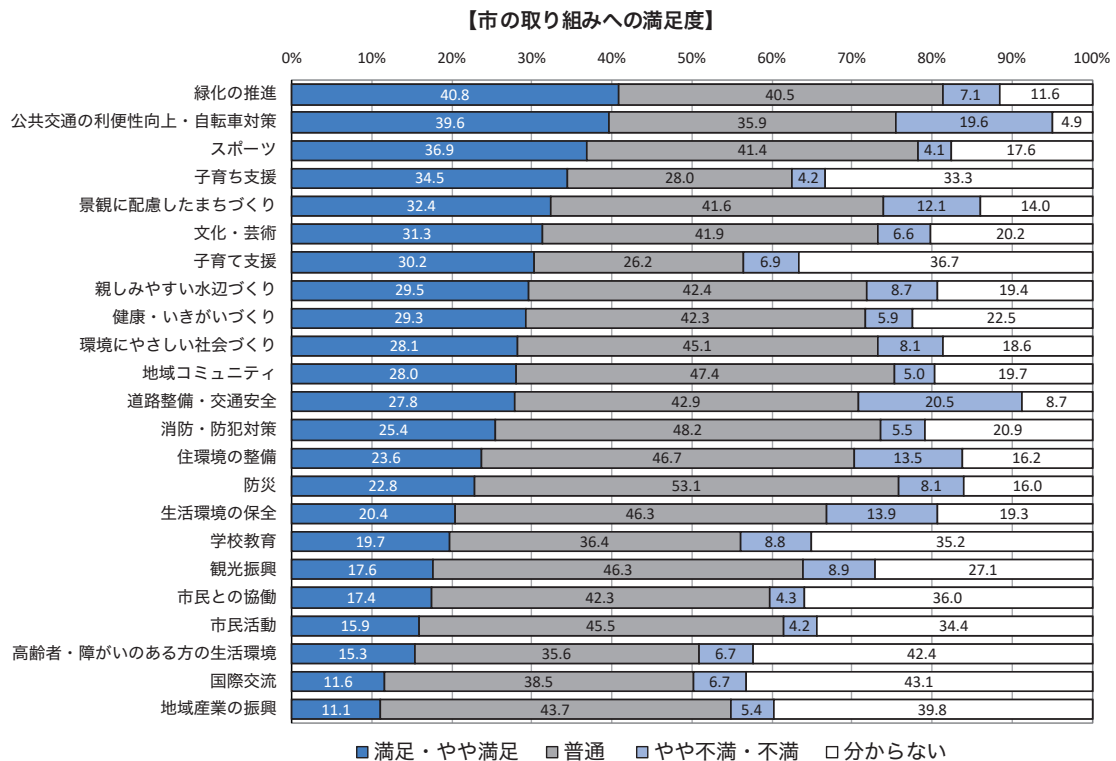
(3) 市民意識調査の把握

①浦安市の住みやすい点

平成30年(2018年)3月に行った「市政に関する市民意識調査」では、浦安市の住みやすい点として、「図書館や公民館、文化施設などを利用しやすい」が、また、市の取り組みの満足度では、「文化・芸術」が比較的高い割合となっています。



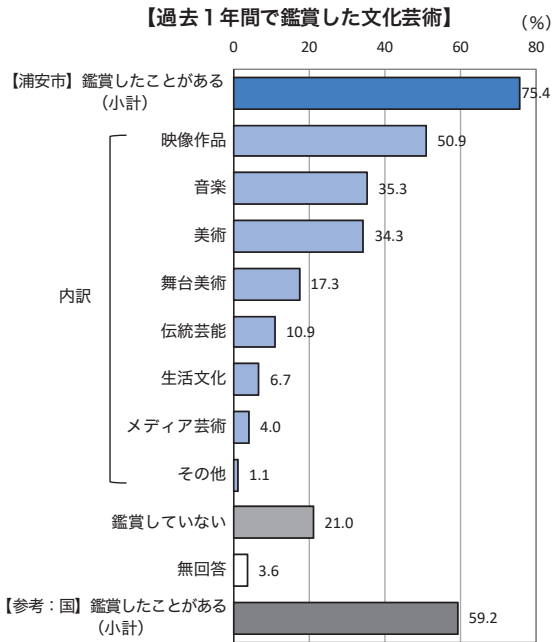
出典:「市政に関する市民意識調査」浦安市、平成30年(2018年)3月



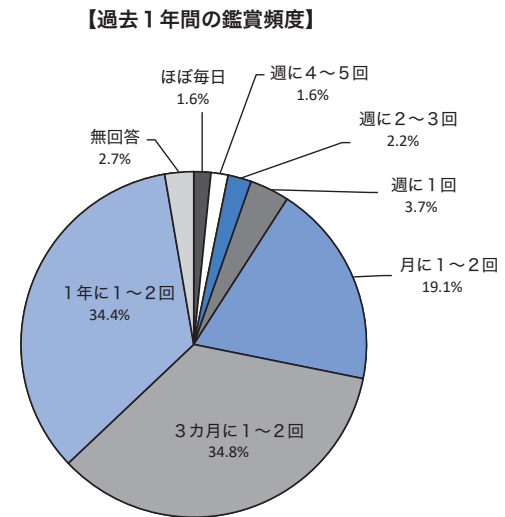
出典:「市政に関する市民意識調査」浦安市、平成30年(2018年)3月

②文化芸術の鑑賞

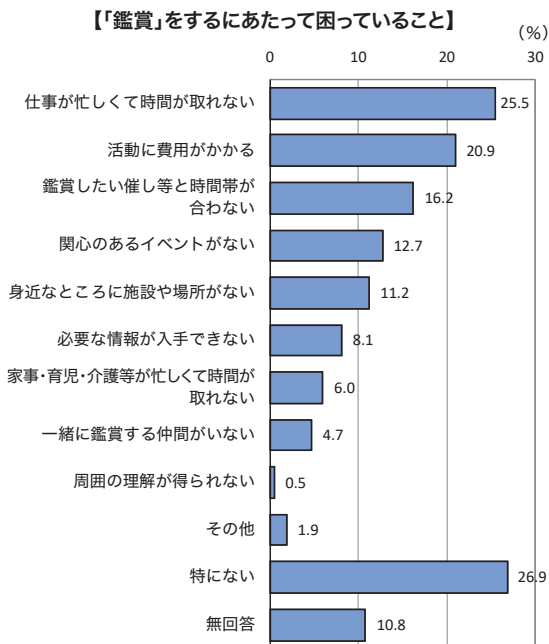
平成29年(2017年)3月に行った「生涯学習に関する市民意識調査」では、過去1年間で文化を鑑賞した割合は75.4%であり、国(59.2%)より16.2ポイント高くなっています。「鑑賞していない」は21.0%となっています。また、過去1年間で「鑑賞」を行った頻度は「3カ月に1～2回」が34.8%と最も高くなっています。「鑑賞」するにあたって困っていることは「仕事が忙しくて時間が取れない」が25.5%と最も高くなっています。



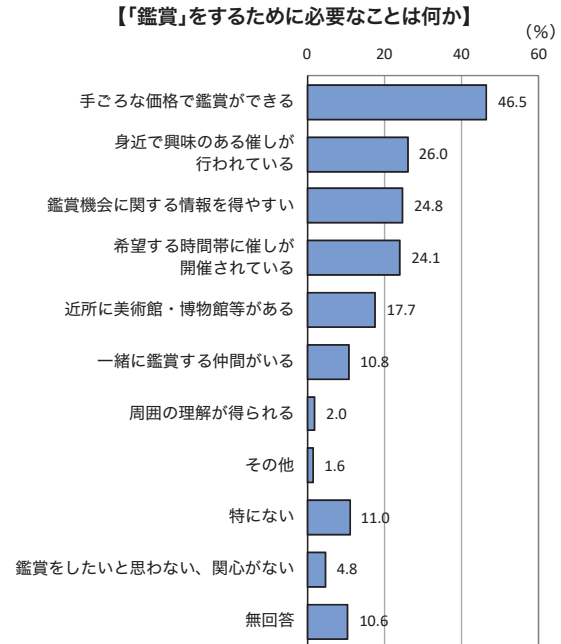
出典：「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月
「文化に関する世論調査」内閣府、平成28年(2016年)9月



出典：「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月



出典：「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月

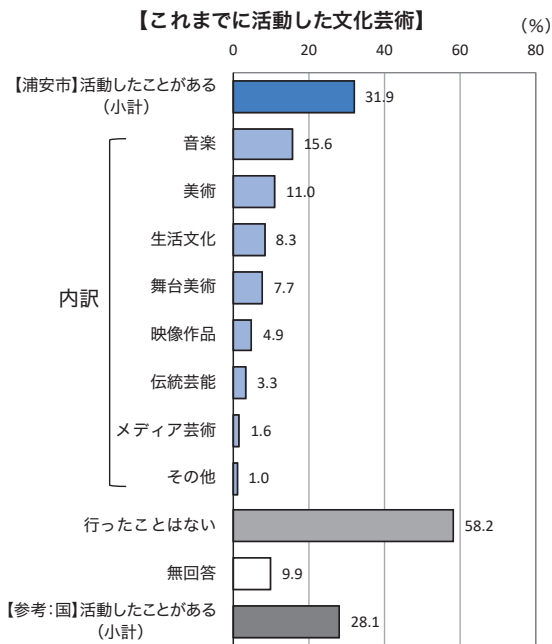


出典：「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月

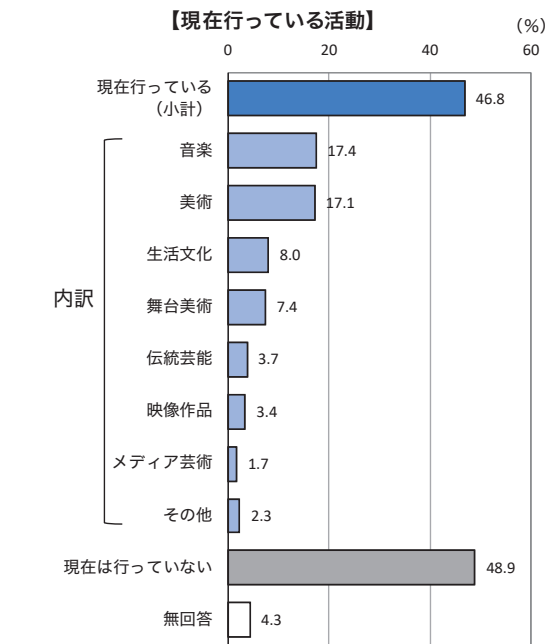
③文化の活動（演奏・創作）

平成29年（2017年）3月に行った「生涯学習に関する市民意識調査」では、これまでに文化の活動を行った割合は31.9%であり、国（28.1%）より3.8ポイント高くなっています。内訳は、「音楽」が15.6%と最も高く、現在行っている活動でも「音楽」が17.4%と最も高くなっています。なお、「行ったことはない」は58.2%となっています。

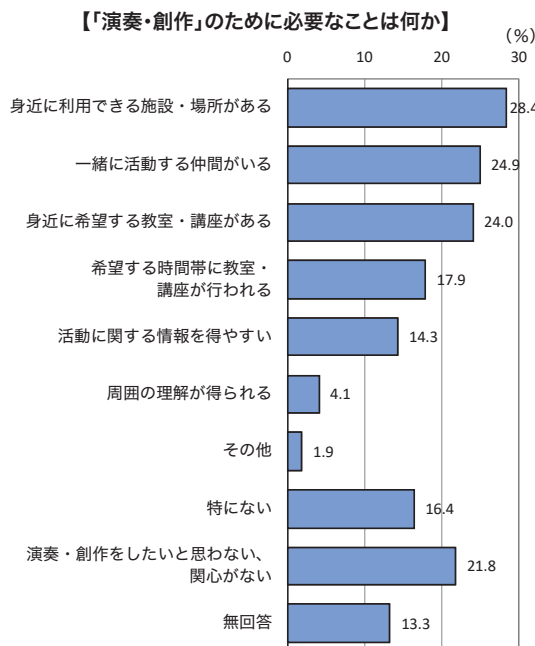
文化の「演奏・創作」のために必要なことは、「身近に利用できる施設・場所がある」が28.4%と最も高くなっています。利用したことがある市内施設については、「中央図書館」が45.2%、「公民館」が44.8%、「文化会館」は24.5%、「郷土博物館」は18.5%、「市民プラザ」は17.9%となっています。



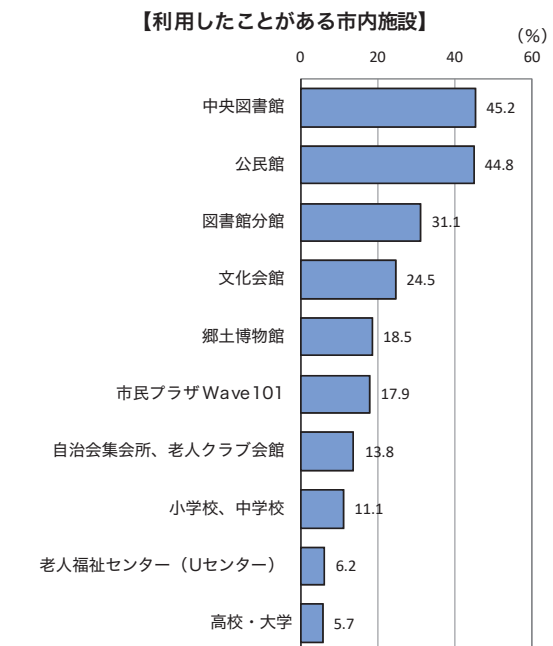
出典:「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月
「文化に関する世論調査」内閣府、平成28年(2016年)9月



出典:「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月
(これまでに活動を行ったことがある方が対象)



出典:「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月

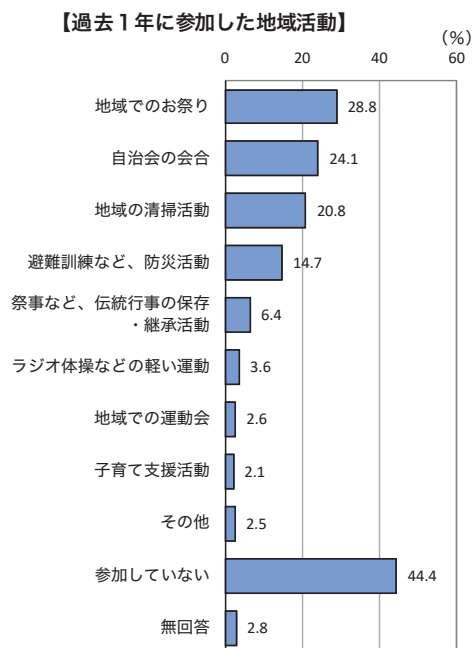


出典:「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月
(スポーツ施設を除く上位10施設)

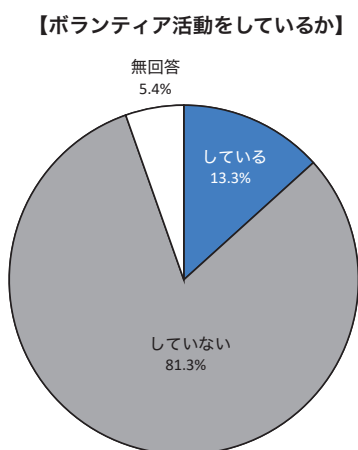
④地域活動の参加

平成29年(2017年)3月に行った「生涯学習に関する市民意識調査」では、過去1年に参加した地域活動については、「地域でのお祭り」が28.8%と最も多く、「自治会の会合」がその次に多くなっています。また、「参加していない」市民は44.4%となっています。

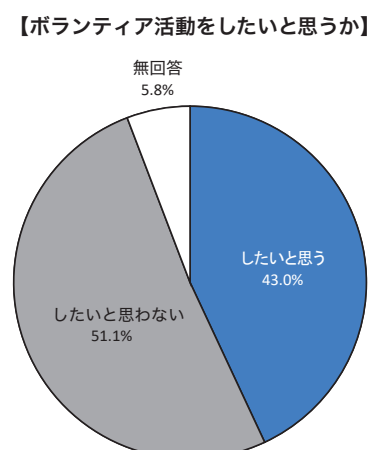
ボランティア活動については、「していない」が81.3%、ボランティア活動をしたと思うかは、「したいと思わない」が51.1%となっています。



出典:「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月



出典:「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月



出典:「生涯学習に関する市民意識調査」浦安市、平成29年(2017年)3月
(活動を「していない」と回答した方のみが対象)

(4) 先進都市事例

文化芸術基本法に掲げる、文化の振興と文化と他分野との連携を基本方針において図るため、先進都市の事例について調査・研究を行いました。

事例1：高岡市（富山県）

高岡市は古くから交流・交易、また、ものづくりの拠点として栄えてきた歴史に根差した多種多様な文化を活かし、魅力ある都市として存在感を高め、活性化を図る取り組みをしている。

【取り組み事例】

- ・万葉の故地である高岡では、『万葉集』に残された「歌」を中心として、日本最初の展示を試みた「高岡市万葉歴史館」を開館した。この万葉歴史館は、調査・研究・情報収集機能、教育普及機能、展示機能、観光・交流機能を持ち、『万葉集』に関心の深い全国の方々との交流を図るための拠点施設となっている。
- ・「高岡クラフト市場街」は、「工芸都市高岡クラフト展」を中心に、高岡における産学官連携事業として平成24年（2012年）から毎年秋頃に開催している。現代の産業や生活に寄り添うことができるクラフトに焦点を当て続けることで、高岡が全国にも誇れるクラフトの一大拠点になりつつある。このクラフト市場街は、クラフトのみに限ることなく、クラフトの制作を支える職人や街の方々との交流、歴史ある風景に出逢える街歩き、クラフトと北陸の幸が詰まった食の文化が結びつくことで生まれる新しい発見を大切にしている。

事例2：浜松市（静岡県）

浜松市では、世界に誇る多くの音楽関係の起業家や産業技術が創出されてきた。また、地域の人々が多様な伝統文化を受け継ぎ、人材や技術の集積を活かしたまちづくりに取り組み、「ものづくりのまち」「音楽のまち」として発展してきた。

浜松市が持続的に発展し、市民にとって誇りうる都市としてありつづけるために、世界をリードする産業・文化とそれらを支える市民が持つ経験と実績をもとに、浜松市は「創造都市・浜松」への取り組みを引き続き進めていくとしている。

【取り組み事例】

- ・音楽の多様性と創造性を追求するため、「サウンドデザインシンポジウム」を開催した。このシンポジウムは、「音楽」という分野にとらわれず、メディアアートなど他の芸術分野や医療・福祉をはじめとした他分野での音の活用事例などを取り上げることで、「音」を機軸とした新たな取り組みに関する多様な企業・団体・人材の掘り起しと参画、連携強化を図るとしている。



浦安市文化政策基本方針 資料編

発行：平成31年3月 編集・発行：浦安市 市民経済部 地域振興課

〒279-8501 千葉県浦安市猫実一丁目1番1号 電話：047-351-1111（代表）